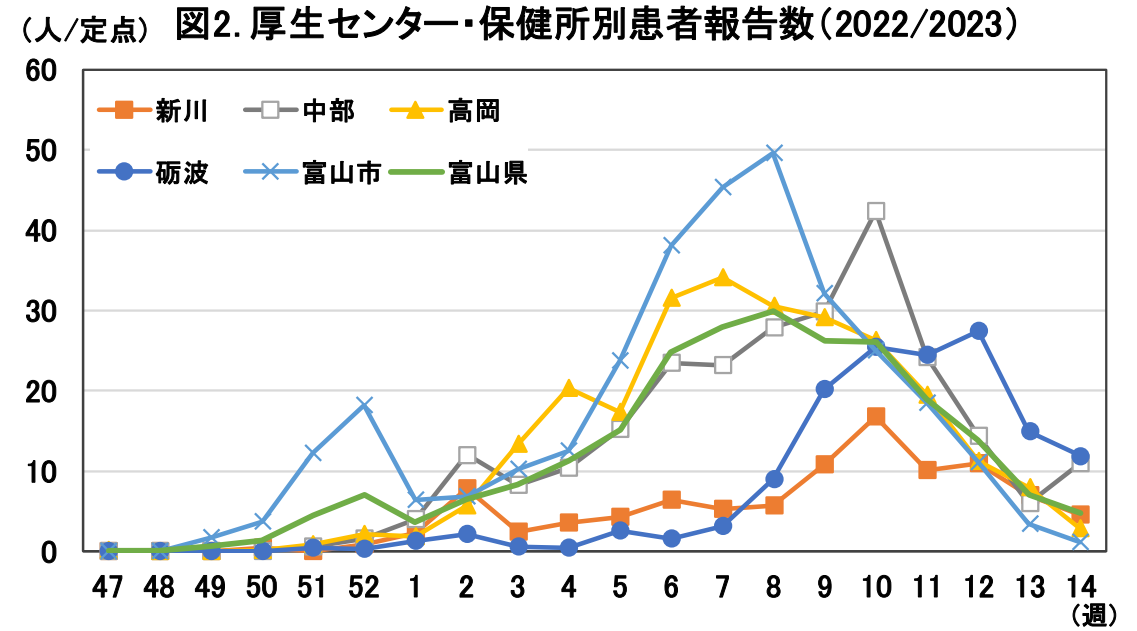
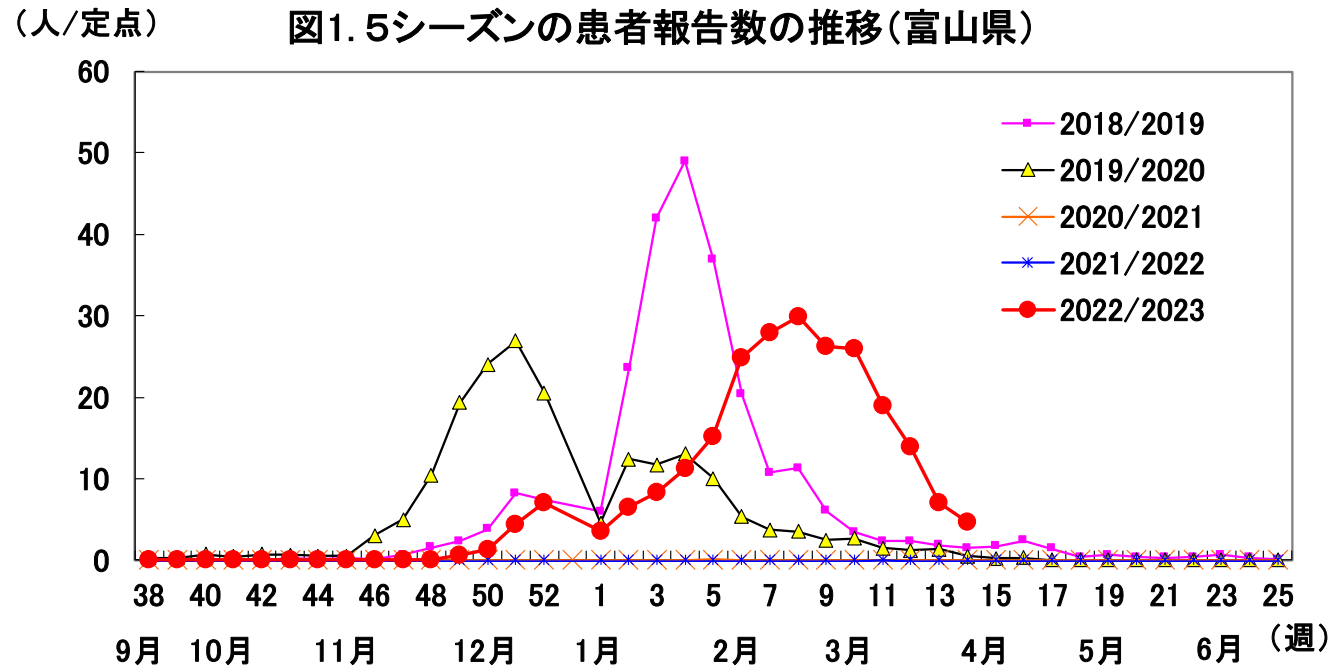


インフルエンザの発生状況(富山県)

【第14週(2023/4/3~9) 感染症発生動向調査速報値 (2023/4/12時点)】



- 今週の報告数は4.73人/定点となり、減少傾向が続いた(図1)。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、中部厚生センター管内は先週から増加し(6.00人/定点→11.00人/定点)、その他の管内では報告数が減少した。現時点で、中部と砺波厚生センター管内では10人/定点を超えている。

図3. 年代別割合(富山県、第14週)

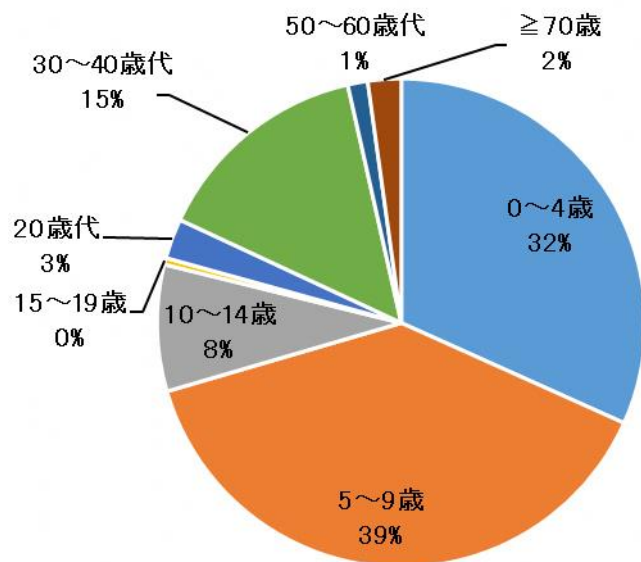
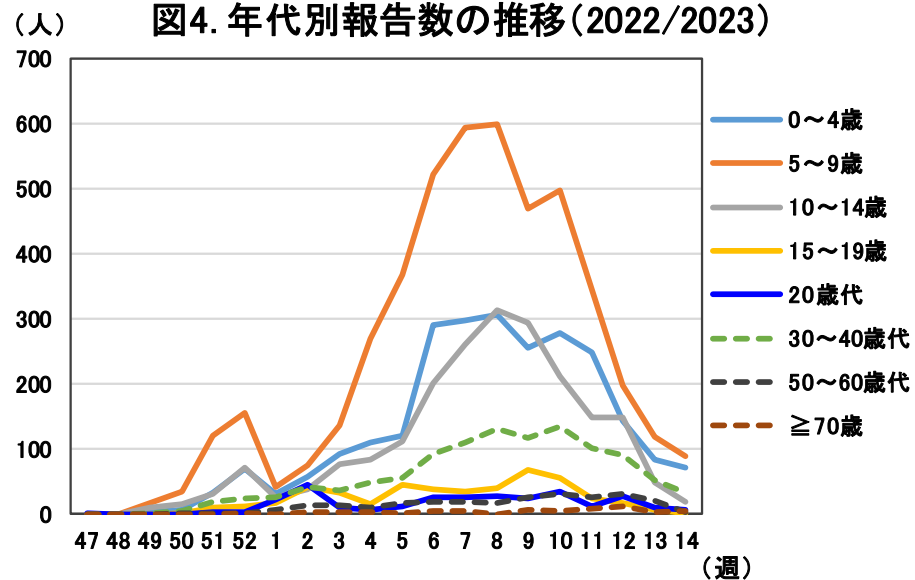


図4. 年代別報告数の推移(2022/2023)



- 富山県の第14週の年代別割合 (図3) では、15歳未満の小児が79%を占めた。
- 年代別報告数の推移 (図4) では、70歳以上を除くすべての年代で減少傾向が続いている。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第13週)

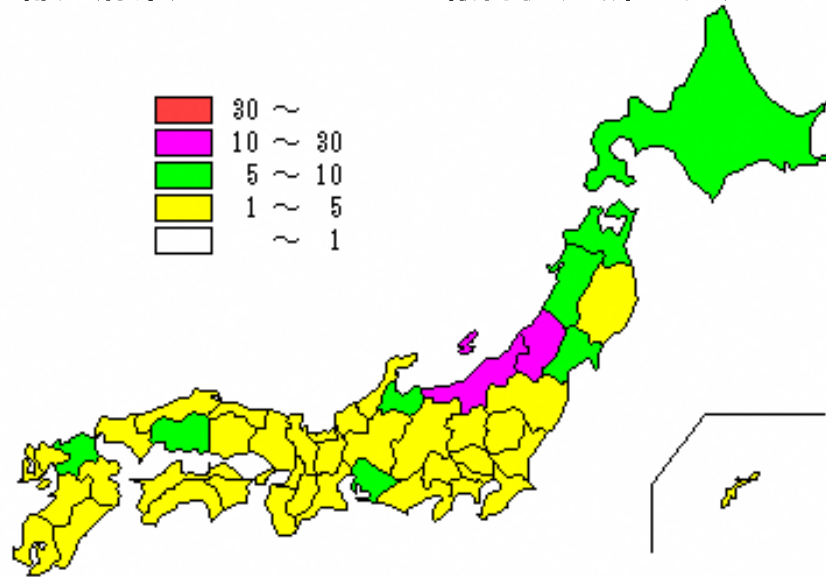
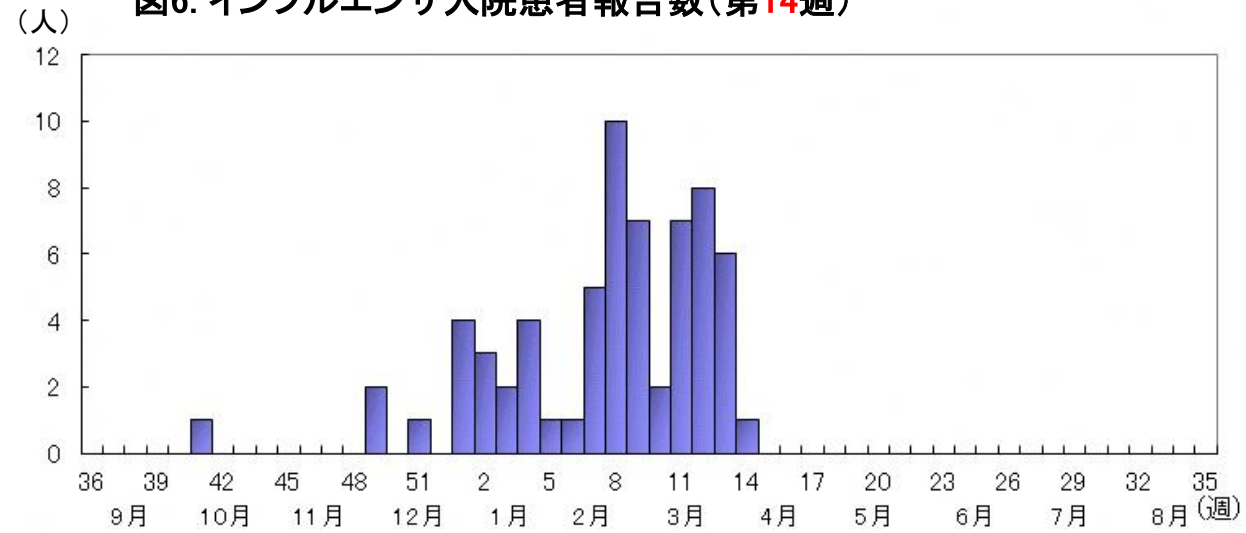


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第14週)



- 全国の定点あたり報告数は第13週に4.06人/定点となり、前週（6.44）より減少した。なお、都道府県別（図5）では2県で注意報レベルの10人/定点を超えている。警報レベルの30人/定点を超える都道府県はなかった。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第14週に1例の幼児例が報告された。